

講義名	コミュニケーション心理学			授業形態	
担当教員	西尾 範博 / 池田 曜子	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
				ナンバリング	

主題と概要

コミュニケーションに関する心理学の基礎的基本的な知識と演習を5回にわたって学び、理解し、自己理解・他者理解を深めたあと、続く10回の授業にてコミュニケーションを心理学、とりわけカウンセリング心理学の視点から捉え、友人・親子を含む、さまざまな人間関係において相互理解と信頼が生まれ、相互の気づきや成長を促すことができる高いコミュニケーションのあり方について理解を深め、実践する契機を提供する。

到達目標

- (1) コミュニケーションに関する心理学の基礎的基本的な知識を理解し、説明できるようになる。
- (2) コミュニケーションにおける「聞き手目録」と「話し手目録」の違いを理解し、説明できるようになる。
- (3) 非受容を示すコミュニケーション、受容を示すコミュニケーションがどのようなものかを理解し、説明できるようになる。
- (4) 受容が生み出す力を理解し、説明できるようになる。
- (5) コミュニケーションにおける5つの対応の仕方を理解し、説明できるようになる。
- (6) 共感的理解と感情的癒着・同一化について理解し、説明できるようになる。
- (7) アクティブ・リスニングについて理解し、説明できるようになる。
- (8) 問題を抱えた人の助けとなれるよう相手の真意を理解し、受容することができるようになる。
- (9) コミュニケーションのとり方について日常的に練習を積み、信頼関係を築くことができる。

提出課題

ほぼ毎回の授業で課題やレポート等を課す。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題やレポート等の提出課題に書かれた内容を翌週の授業で話題にし、前回の授業の振り返りや補足説明の機会をとるとともに、翌週の授業内容に組みこんで授業の新たな展開に役立てることにし、学生の理解に即して学生の理解を深めるようにし、到達目標の達成につなげる。

評価の基準

ほぼ毎回の授業で課す課題やレポート等をもとに、到達目標に照らして総合的に評価する（詳細は授業中に示す）。なお、欠席回数が5回（例えば、池田担当授業の欠席回数が1回であっても、西尾担当授業での欠席回数4回）になったところで、原則としてこの科目を放棄したものとみなし、評価の対象から外れるので注意すること。

履修にあたっての注意・助言他

- 次の3点が求められることをあらかじめ理解し、実践すること。
- (1) 毎回熱心にノートをとるが重要。
 - (2) 担当教員の指示に従い積極的かつ主体的に学ぶこと。
 - (3) 授業中に学んだことを授業の中で終わらせずに日常生活において実際に試してみる、練習してやることにより、知識を知識で終わらずに日常生活において実践し活用できるよう努めること。

教科書

.使用しない。

参考図書

その他

授業中に教材プリントを配布し、参考文献を随時紹介する。

授業計画

1. 自分自身を知る：自己紹介を通して理解を深める（担当：池田）
2. 価値観の違いを知る(1)：他者の意見を理解する（担当：池田）
3. 価値観の違いを知る(2)：「思い込み」「先入観」に気づく（担当：池田）
4. 話す、聴く、応える(1)：基本的な心構え（担当：池田）
5. 話す、聴く、応える(2)：自分の話し方、聴き方、応え方を知る（担当：池田）
6. コミュニケーションモデル（担当：西尾）
7. コミュニケーションにおける「聞き手目録」「話し手目録」（担当：西尾）
8. コミュニケーションにおける非受容と受容の事例（担当：西尾）
9. コミュニケーションにおける受容の事例（担当：西尾）
10. コミュニケーションにおける受容に陥った事例（担当：西尾）
11. 受容が生み出す力（担当：西尾）
12. 5つの対応の仕方：それぞれの特徴（担当：西尾）
13. 5つの対応の仕方：非受容と受容の観点からの整理（担当：西尾）
14. 受容と許容の違い、共感的理解と感情的癒着・同一化（担当：西尾）
15. アクティブ・リスニング（担当：西尾）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回学んだことをノートや配布プリントを使って復習すること（1時間）。また、学んだことを翌週の授業までの日常生活において3時間以上かけて試したり練習したりすることをもって次の授業の備えとする。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、上記の主題と概要、授業計画のもとで到達目標の達成をもって、本学のディプロマ・ポリシーである次の5点に貢献する。「ネアカのびのび・へこたれず」の精神を持った人材、知識を知恵に転換することができる人材、創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材、自主・自立の精神を持った人材、仲間と協働して、物事を成し遂げることができる人材を育成するとともに、心理コースが備える目指す「さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる」ことと、「コミュニケーション能力と、消費者と援助を求め人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面で心理学を応用することができる」こと。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

毎回の授業の冒頭で前回の復習をかねて、前回の課題を話題に取り上げ、学生とのやりとりを行う。授業中に学生に問いかけ受容を求める機会をつくりながら進める。グループワークを通して双方向性を高める。クリッカー（レスポンス）を活用して、学生の考えや理解をその場で把握し、学びの質を高める。以上の4点をもって到達目標の達成に努める。

実務経験の有無及び活用

備考

毎回の授業を楽しみに出席する学生を歓迎する。授業では授業内容に集中し、熱心に学びとろうとする主体性が強く求められる。